

「慰めの子 バルナバ」

使徒4：36～37p240

9：26～27p251

バルナバの本当の名はヨセフである。しかし、彼は使徒たちによりバルナバ＝慰めの子と名付けられ、彼自身もそう呼ばれることを喜び、そのように生きた人である。聖書の別の処では彼を「立派な人」と記している(使徒11:24)。この原語アガソスは「善人」の意味である。これは彼の人となりを非常に良く現している。聖書に「正しい人のためであっても、死ぬ人はほとんどいません。善良な人のためなら、進んで死ぬ人がいるかもしれません」(ローマ5:7)とある。これは正しいだけでなく、愛と憐れみに富んだ美しい人を示しているのである。

彼をこのような美しい人にしたのは、ご聖霊である。**主**イエスとバルナバとの出会いについては、何も記されていない。しかし彼は最後の晩餐の家、ペンテコステに聖霊が降臨された家の持ち主で、**主**の女弟子であったマルコの母マリヤの甥であり、福音書を書いたマルコの従兄弟である(コロサイ4:10)。叔母マリヤの家に入出入りしていたバルナバは、少なくともペンテコステ聖霊降臨の時の120名の中の一人か、または、ペンテコステ直後に救われ、聖霊の満たしを受けた3000人の中の一人であったと思われる。バルナバは聖霊と信仰に満たされた人であった。

以前「コーチング」という言葉がよく使われ、その代表的人物としてバルナバが挙げられたことがある。御霊に導かれ、彼は人を見出し、**主**が私たちの友となり、寄り添って下さったように、未熟な者に寄り添い、**主**に役立つ人に育てる働きを成したのである。彼は**主**から愛の賜物を頂き、人の良いところを延ばし育てることを通して、**主**に仕えたのである。

[聖書の学び]

I、バルナバの献身

1、バルナバが主にお献げしたもの。 (使徒4:37)

2、バルナバはパウロと共に旅をしながら伝道しました。

① I コリント9:5～12 p338：生活費は自給(天幕職人)

②彼もパウロと同じように、独身だった

II、バルナバに与えられた聖霊による愛 (I コリント13:4～7 p346)

1、寛容で親切なバルナバ (I コリント13:4) ―パウロ(サウロ)の友となり支えた―

①人々が恐れ、信じなかったサウロを引き受けて、彼を信頼し、エルサレム教会の人々に紹介した。(使徒9:27～30)

②アンテيوخアに遣わされたバルナバはサウロを捜し、見つけ出した。(使徒11:22～26)

③アンテيوخア教会から、二人は伝道旅行に遣わされた。(使徒13:2)

2、苛立たず、人がした悪を心に留めないバルナバ (I コリント13:5) 一再献身したマルコを受け入れる—

①マルコを導いて、伝道旅行に連れて行く。(使徒12:25～26、13:5)

②マルコは勝手にエルサレムへ帰ってしまった。(使徒13:13)……悔い改め、再献身したマルコ

③パウロに反対されたマルコを排除せず、マルコと一緒に伝道に出かけた。(使徒15:37～40)



* その後マルコは福音書を書き、エジプトに伝道し、アレキサンドリアの監督になる。

3、人を妬まず、自慢しないバルナバ (I コリント13:4)

先輩のバルナバ…先にバルナバの名前が出ていた (使徒11:30、12:15、13:2)



用いられているパウロを喜んでいるバルナバ…パウロが先に立つようになる(使徒13:43～52)

* **ディスカッション** (心を開いて話し合ってみましょう)

Q. 今日学んだことについて、思うこと、教えられたことを、分かち合いましょう。